

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 290 2022年10月26日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

丘珠空港将来像案 市民と十分協議せよ

10月14日 決算特別委員会（まちづくり政策局） 太田議員

太田議員は丘珠空港の将来像案について複数質問しました。まず市に対して、「丘珠空港の将来像案については、どのように協議をし、どの判断で国に要望を出す決定をするのか」と質問。当局は「月末におきまして、パブリックコメント、それから意見交換会が終了した。これまでの議論なども総合的に見極めた上で年内の将来像策定を目指し、その上で北海道と一体となって国への要望に取り組む」と答弁しました。1998年度に北海道と札幌市が地元意見をまとめた空港整備に関する基本的な考え方を、重要な地元の合意としてきましたが、市はこの基本的な考え方を過去30年間の出来事の一つとして書き、地元住民との約束をなかつたことにしようとしています。

また、丘珠空港が自衛隊との共用空港であることから、同市議は「将来像に関して、自衛隊との協議はどのような内容だったのか、また便数増についての協議はどのようなものだったのか」を問うと、市の担当者は「滑走路延伸に伴い、官製除雪を自衛隊が担っているため相談をしてきた。防衛省にもご理解をいただいている」と答弁しました。

同市議は将来像の議論が民間機だけであること、滑走路が延伸したら、自衛隊としての活用が広がることは容易に想像が付き、将来像案によって自衛隊がどのような役割を果たすのか、これらを明らかにして市民に説明することが必要だとして、市民意見交換会を改めて開くように求めました。

市の障がい者雇用を拡大し 民間牽引を

10月20日 決算特別委員会（総務、デジ、危機管理） 佐藤議員

佐藤議員は、誰もが尊厳を持って生きられる社会を目指し、自立した生活を送る環境を整え、その中でも生活の基盤となる重要なことのひとつが雇用という点から、札幌市における障がい者雇用について質問しました。

同市議は最初に「受験要件を拡大した2018年以降の採用状況について、身体、精神、知的、障害種別ごとの採用人数を伺う」と質問。市の担当者は「13名が身体障害、3名が精神障害、知的障害のある方は採用がない」と答え、知的障がい者の採用が無いことが判明。その一方で、2018年以降、障がい者は合計で296名が受験し、その内知的障がい者は58名いたことがわかり、試験の倍率が高いとはいえ、採用をしていないことの課題が浮き彫りになりました。その課題を受け、同市議は「今後、札幌市として精神障害のある方と知的障害のある方の雇用について、どのように拡大していくのか」と質問をしたところ、担当者は「障害状況に応じた多様な業務内容や勤務時間に対応できるよう、令和2年度以降は会計年度任用職員としての任用も開始、現時点では26名の職員を任用している」「今後とも、障害のある方が地域で自立した生活を送ることができる社会の実現に向け、知的障害、精神障害を含め、雇用を進めてまいりたい」と答弁しました。

佐藤市議は最後に、障害のある方が様々な機会雇用をを広げ、特性個性に応じて能力を発揮し、働き続けられるように推進して欲しいと要望しました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。